

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	892600073		
法人名	医療法人社団 有朋会		
事業所名	グループホーム クリクリ		
所在地	那珂市豊喰140-17		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	平成29年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892600073-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々としたウッドデッキでのんびり外気浴をして過ごして頂いたり、各々がゆっくりと時間を過ごして頂ける点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は「あたたかい、笑顔の絶えない、家族の様な雰囲気」との事業所の理念に基づき職員のコミュニケーションも良く、利用者が自分が必要とされていると感じるようなケアに努めている。
 玄関は日中施錠をせず、敷地は広く通路をブロックで整備されているため、利用者は自由に安全に敷地内を散歩できる環境となっている。
 お天気の良い日に職員は利用者をドライブに誘い出かけたり、毎月実施される外食や誕生日会は手作りケーキで祝い、おやつにたこ焼きやホットケーキを利用者と職員で作るなど、利用者の楽しみごとが多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に介護事業部の理念を唱和をしている。またフロア内にグループホームの理念を掲げ、これも唱和しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を管理者と職員で作成し、ユニットに掲示するとともに、朝礼時や月1回の職員会議時に意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一建屋内の小規模多機能ホームと合同の夏祭りにはボランティアの方をお招きして楽しく開催する事ができました。また昨年から地域の敬老会、運動会にご招待頂き一部の利用者様ですが、参加させて頂きました。	町内会長が運営推進会議委員なので、市広報紙を配布してもらい、地域の清掃日に合わせて職員と利用者でゴミ拾いをしている。地域の小学校から敬老会と運動会に招待を受けて出かけ、運動会では競技に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してケアの仕方等をお話しさせて頂くことはありますが、その他の場で活かしていないのが実情です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動状況、ヒヤリハット、インシデント等の報告をし情報交換をしています。	運営推進会議には市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長等とともに、同一法人の管理者が数名参加している。行事や利用者の状況、取り組み、課題等を話し合い、委員から出た意見は運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席をお願いし出席頂いています。またわからない事等積極的に聞く様になっています。	管理者は市と連携を取り、グループホームの運営にあたり、分からないことがあった場合は相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠を含め身体拘束は行わないものと、帰宅願望がある利用者様や、離脱の可能性がある利用者様に対しては職員間で声掛けをしながら、その方と個別的関わりを持ちながら対応しています。	事業所は身体拘束を行わない方針で、これまでも実施したことはなく、その旨を運営規程や契約書に明記している。身体拘束排除に関するマニュアルは作成されておらず、研修を行うまでに至っていない。	身体拘束を行わないケアに関するマニュアルを作成するとともに、研修を行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り等で虐待について話し合う場を持ち、意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を全体の職員が理解できていないのが現状です。職員に対して学ぶ機会を設けていきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等ご家族様に説明をさせて頂き理解が得られる様に努めています。また、こちら側から疑問点等あるか声掛けをさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所の苦情受付窓口と第三者機関の苦情受付窓口を明記し、契約時にご説明しています。また日頃から面会時などご家族様からのお話をくみ取り、改善に繋げていけたらと考えています。	家族等からは意見箱を設置するとともに、面会時や通院の付き添い時にコミュニケーションを取り、意見や要望を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや会議時等職員からの意見を聞き、業務に活かせるようにしています。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、月1回の職員会議時や年2回の職員面接時に職員から意見を聴くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、疲労等蓄積しないように考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修や、各部署での勉強会等を行い、職員のスキルアップやサービスの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	先日市内にあるグループホームが集まり連絡会が行われ各事業所での活動の取り組み等の報告がありました。次回このような機会があれば積極的に参加していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心細さや不安感を少しでも取り除けるよう傾聴する時間を設けたり、個別的な対応をする様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やその前の段階でご家族様とお話をさせて頂く際は、きちんと耳を傾け安心して頂けるような言葉がけをするよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要とされている物や事柄等ご家族様や利用者様とお話を伺いながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において一緒にアクティビティや外出等活動を行いながら楽しみや喜びを共にし良い関係性が築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様、利用者様と積極的に関わりを持つように心掛け、近況報告等を行いながら繋がりを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とご相談しながら、ご家族様以外の方でも面会をしたり、可能な限り馴染みの場所などに出掛けられる様に努めています。	友人や知人が面会に訪れた際にはお茶を出してゆっくりと話ができるよう配慮したり、定期的に自宅へ外泊する、家族と食事に出かけるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の様子から利用者様同士の関係性を把握し、座席、テーブルの配置などを考慮しながら関係性が良好に保てるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設にうつり、当事業所の契約終了された方がいますが、終了し数回はご家族様とお話はさせて頂きましたが、現在は経過をおってはいないのが現状です。今後検討していきたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の希望等をお聞きしたり、日々の関わりから思いをくみ取る事ができるように努めています。	利用者に声をかけ、話をする中で意向や要望を聴くようにしている。 思いを表出するのが難しい利用者の場合は表情や仕草から読み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や趣味などご本人様やご家族様からお聞きして日々の活動に取り入れていく様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との関わりや観察の中から心身の状態や現状の把握に努めています。変わった気付きがあれば、記録をし、申し送りを行ったりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行いご本人様、ご家族様、職員からの意見等を出しプランの作成に努めています。状況に応じ変更を掛けたりするようにしています。	介護計画は、利用者と家族等に意向を聴き、計画作成担当者が作成し、面会時に家族等に確認を取っている。 毎月モニタリングを行い、基本1年で見直しを行っているが利用者の状況に変化があった場合には随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、状況の変化等を個人の記録や申し送りノートに記載し職員は出勤時に必ず目を通し、情報の共有を図り、ケア計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化として既存のサービスに捉われない取り組みは現在の所できていないように思います。今後は様々なニーズが現れた際職員間で話し合い利用者様、ご家族様に対し柔軟に対応できるように努めていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか社会資源の把握と、活用ができていないのが実情です。ボランティア様の受け入れも年に数回ありますが定期的な受け入れが出来ておらず、今後検討していきたいと考えています。		
	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法事内の医療機関と連携しご家族様と共に職員同行し受診をすることもあります。その際はご家族様のお話も伺いながら受診の支援をさせて頂いています。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明しており、かかりつけ医への受診は家族の付き添いを基本としている。家族等が付き添えない場合には職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活において変わった状況があれば、看護職員に報告したり場合によってはアドバイスを頂けるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の医療機関だけではなく他医療機関の受診や入院の際も同行させて頂くこともあります。その際お互いに情報交換をさせて頂いたり、定期的に本人様の様子を伺いに行く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約の際、ご家族様に終末期（看取り）に対してのご説明をさせて頂いています。現在の所、事業所として終末期を迎えた経験はありません。今後終末期を迎える利用者様が現れたことを想定し取り組む事が出来るよう整えていきたいと考えます。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期、看取りに関する説明を「看取りに関する指針」に基づいてしている。重度化や看取りのマニュアルは作成しているが、研修を行うまでには至っていない。	重度化や看取りに関する研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網はありますが、応急手当や初期対応の訓練、研修は定期的に行っていないのが現状です。実践力を身に付け、落ち着いて対応できるようにしたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施していますが、地域との協力体制という部分ではまだ十分に整っていないのが現状です。今後災害の部分でもお話が出来たらと考えています。	夜間想定を含む避難訓練を年2回以上行い、訓練の記録を作成するとともに、反省会を行い課題について話し合っている。一覧表を作成し、備蓄品を保管している。災害時には隣接する特別養護老人ホームと連携することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や生活歴等を把握してその方を尊重したプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしています。上手くできる職員もいればそうでない職員がいるのも現実です。みんながうまくできるように努力します。	職員はプライバシーに関する内部研修を受け、日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。職員は利用者に対して、自分が必要とされていると感じられるように、話を否定せず、傾聴するよう心がけている。個人情報に関する同意書が作成されていない。	事業所内の写真掲載と、広報誌の写真掲載を含む個人情報に関する同意を書面によって得ることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望等うまく表現できる方ばかりではないので、難しいところではありますが、お話を聞いたり日々の行動を観察しながら職員は「こうしてもらいたいのかな？」と考えるよう努力しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、外出行事、食事等利用者様の出来る限りご希望に沿えるよう対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂いているので、希望者にはカットをしています。男性には髭剃り、女性は整髪等毎日声掛けや援助をしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きやお盆拭き等を行っています。また利用者様の希望を聞き、焼きそばや簡単なおやつと一緒に作っています。	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。利用者はエプロンをかけ、能力に合わせ野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付けなど、食事の準備をしている。毎月1、2回利用者の希望による昼食を利用者と職員で作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等毎日チェック表を用いて把握できるようにしています。量が少ない方に対してはその方の状態に合わせて好みのものや、栄養価の高いものを提供したりしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の口腔内の状況によってうがいや歯磨きなどの声掛けや義歯の洗浄などのケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をもとに個人の排泄状況を把握し、定時で声掛け誘導を行っています。夜間に関しても個人の状況に合わせて声掛けをさせて頂いています。	利用者一人ひとりの生活リズムやパターンを把握した排泄支援をしている。夜間も声かけをしてトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くよう心がけています。また毎日の日課として体操を行っています。毎日排便状況をチェック表をもとに確認し、排便が滞っている方に対しては腹部マッサージを行ったり医師から処方して頂いた薬で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴できるようにしています。その都度利用者様の希望やタイミングを見計らって声掛けをさせて頂いています。入浴の拒否がある方に対しては無理強いせずには時間帯を変えたり清拭にしたり等工夫をしています。	入浴は週3回午前中を基本としているが、利用者の意向に合わせて、夜間以外は入浴可能となっている。 入浴を好まない利用者には、対応職員や時間を変更するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の為に日中はなるべくフロアに出いただき活動に参加して頂くようにしていますが、体調や気分がすぐれない時等は無理強いせず居室にて休息を取って頂くようにしています。入眠に関しては不安のある利用者様に対しては先生と相談しつつ定時処方や頓服にてお薬を処方して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をすぐ確認できるように個人ファイルに綴じてあります。また処方に変更があれば、職員間で情報が共有できるように連絡ノートに記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、洗濯物たみ、植木の水かけ等以前ご家庭でやっていた事を無理強いせずお願いしています。これらを行って頂く事で日々の生活に張り合いが出てくるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞きながらドライブに出かけたり、近所のスーパーや、ホームセンターに買い物に出かけたりしています。また、外食外出も定期的に計画しています	天気の良い日は近隣の散歩をして、住民と挨拶を交わしたり、職員と買い物に出かけたりしている。 年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人ご家族様から小口現金として現金をお預かりしています。本人様から希望があった場合、現金がお使いいただけるよう支援しています。ご家族様にはレシートなどをお渡しし、何に使ったかを報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればホームの電話を使って頂くようにしています。また、伝言があれば、代わりに職員が連絡するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には行事の写真を貼ったり、季節のお花を飾ったりしています。また、奇抜な飾りつけはせず、落ち着いた雰囲気になるように心がけています。	広いウッドデッキと、ブロック敷で歩きやすい庭があり利用者は外に出て花壇の花を楽しんだりしている。廊下には利用者の作品や行事の写真等を掲載してあり事業所での暮らしがわかるようになっている。浴室やトイレは使いやすく安全に配慮されていて、共有空間は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の食事スペース以外に少し離れた場所にテーブルとイス、又ソファを設置しています。ちょっと時間に利用者様や職員一緒にコミュニケーションが取れる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたタンス等使い慣れた家具の持込み等ご要望に応えるようにしています。また、お写真やお花なども飾って頂き、居心地のよい空間になるように工夫しています。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン、整理筆筒が備え付けられており、利用者は他に使い慣れた物品を持ち込み、思い思いの部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、トイレ、浴室等バリアフリーになっており、手すりも設置してあります。フロアにはカレンダーを貼り付け、日時の認識が出来るようにしています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名：グループホームクリクリ

作成日 平成29年 8月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人情報に関する、書面が取り交わしていない。	個人情報同意書をご家族様から同意を得る。	個人情報同意書を作成して、ご家族様に説明をして捺印を頂き承認を得る。	6ヶ月
2	6	身体拘束は原則行わないが、マニュアルが整備されていない。他、身体拘束に関する研修を行う。	身体拘束に向けた内部研修や外部研修への参加。	マニュアルの整備。研修会の実施。	12ヶ月
3	33	現在の所は、看取りの対象者はいないが今後に向けてどうしていくのか？	マニュアルも活かしつつ、研修も行っていく。	外部研修に参加して、それを持ち帰って、内部研修に活かす。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。